

# 第 10 回日本インターネットガバナンス会議(IGCJ)レポート

2015 年 12 月 22 日

## 1. 会合の概要について

- 日時： 2015 年 11 月 19 日(火) 19:07~20:31
- 会場： 富士ソフトアキバプラザ 5F レセプションホール BCD
- URL： <http://igcj.jp/meetings/2015/1119/>

### 1.1. 参加状況

- 会場参加者数： 20 名
- 中継視聴者数（最大同時視聴数）： 6 名

### 1.2. アジェンダ（発表者敬称略、所属は当時）

1. IDN TLD 文字列のルール策定活動について  
日本語生成パネル(JGP)チェア 堀田 博文
2. IGCJ 全体の振り返り  
IGCJ を考える会 木下 剛
3. 「IGCJ を考える会」の振り返り  
IGCJ を考える会 堀田 博文

## 2. 質疑応答・議論内容

### 2.1. IDN TLD 文字列のルール策定活動について

C. 自分もパネルの一員だが、私自身が大事だと思ったことを述べる。中国、韓国、日本という、それぞれ異なる異体字に対する概念を持った 3 言語で調整して一つのルールを決めることになる。その上で、普通に日本語のことだけを考えると「それはちょっと…」とか「それはどうだろう？」とかいうことでも、どうにかしたらルールを決める時点で多少は妥協しないといけなくなるかもしれない。一方、中国とかにとっても、彼らも痛いことを妥協しないといけなくも知れない。そうやってルールを作る、そこが肝だと思う。もちろん、ルールやアルゴリズムを決めることも難しいが。

A. まさにその通り。この話のポイントは、これはインターネット上のルールのガバナンスだということ。文化のガバナンスではない。それをいかにきちんと価値観として共有できるか。例えば、TLD である以上、あらゆる可能性をそこにマップしたいわけではなくて、インターネット上の識別子が対象であり、しかも TLD だけをガバナンスしたいということ。そこをみんながきちんと理解するまでに時間がかかった。

また、中国と日本語は 2LD で漢字の IDN を既に使ってきているので、「ここまでは困らない」と

いう土地勘がある。でも韓国はそうではない。どこまでなら妥協しても大丈夫かの判断は、彼らが一番難しい。

繰り返すが、「インターネット上のルールを作る」ということの共有が一番難しいと日々感じている。

Q. 自分の会社では既にドメイン名をいろいろ取得しているが、2 バイト文字の話は我々には普通に理解できる話。一方で、.com とか、他にも IDN が登録できるレジストリが結構あるが、既に IDN の登録が始まっているところに対して、今回策定されているルールや活動がどういう風に関係してくるのか？ 強制力は無いのかなとは思いますが、既に運用しているところへのリコメンデーションとか、今後どうなっていくのか？

これから始めるところに対しては有効だと思うが、現行のものに対しては、既にバッティングしているところもあるように思う。そういうものに対して、どうやって調整や働きかけをするつもりなのか？

A. 素晴らしい質問。なぜ素晴らしいかという、まさに今おっしゃったようなことがパブコメにかかっている。2LD に対して、この LGR をどうすべきかという議論が今なされている。単に、こういう細かいルールについて「ルートで決めたものを 2LD で使え」という話ではなく。例えば、.jp と.cn では既に 2LD における IDN のルールが違う。じゃあそれで別に問題になってないのかと言えば、きっと見えていないだけで、インターネットユーザーにも多分混乱は起きているのだろう。今でもそうなのであれば、今後 IDN だらけになるとすると、ローカルルールがいくつもあるのは良くないし、混乱もするはず。

「そんなに何でもいっぱいありにしちゃ駄目だよな」という話が、ようやく ICANN でも出てきたということ。その流れで、「2LD に関するルールを作ろうとしているのだけど、こんなのどう？」というパブコメが行われている。なので、コメントがあればぜひおっしゃって欲しい。

パブコメは英語の文書で、「なぜ IDN で英語？」というところはあるが、もし質問者よりも私の方がこの分野に土地勘があるのだとしたら、言っただけならばこの世界の言葉に翻訳してコメントを書かせていただくのも可能だと思う。

## 2.2. IGCJ 全体の振り返り

C. この場で話題として取り扱っているものは、おおよそがいわゆる IGF でやっている話。ただ、IGCJ を始める時はもう少し幅広くやりたいよねとなっていたはず。インターネットユーザーとしてこれから入ってくる人も、この場に取り込んでいけないといけないだろうという話をしたと思う。自分も忙しいし、なかなか会議にも出られなくて申し訳ないが、コアの部分はこれまでもやってきたし上手くできていると思うが、新規の人たちのご招待が大事。自分も銀行や証券の人たちに呼ばれて、ガバナンスの問題でもありビジネスの問題でもあるようなことを相談される。そういう人達に対して、「どういうところが不安ですか？」と聞くのも良いし、呼べる人もいっぱいいる。そういうことを意識的にやらないといけないものの、提案とかは作れていないし時間も取れてないが、藤原さんや村井さんが言うところのいわゆる「After Internet」に関わる人達を、ガバナンスの議論に取り込むことが重要だ。

C. 内容を振り返ると、テクニカルコミュニティの得意な分野はある程度カバーされているが、他はそうでもなかったかもしれない。今の状況だと、ガバナンスと言えば、IANA 移管だけだと思われる。でも、グローバルに見ると、セキュリティの話も大きいし、日本には直接関係は無いが接続性の話もある。その他にも、経済発展とか IoT とか着目されているところはいろいろあり、自分はそれを肌で感じている。自分はそういった分野にあまり詳しくないので、雰囲気は伝えられるが、動向を正しく伝えられる自信はない。セキュリティも幅広いし、世界にもホットな国防とプライバシーの話や、サイバー犯罪、本当はそういったことも話し合えると、世界でホットだしみなさんにも身近に関わってくるし、どういう風に共有すればいいのか、自分も解がなくて悩んでいる。たとえば、セキュリティの話だと「JPCERT/CC さんが追っているけど、実は話す場がない」とか、そういうこともあるのかもしれないと思ったりする。

C. インターネットのガバナンスは元々クリティカルリソースを扱うところから始まっているが、リソース面だけじゃなくて、利用面の話とか、テーマが広がってきている。まずはそういう環境の変化をこの中で気づくところからスタートして、「次にどこが重要だから議論しよう」とやればいいのかなど思った。

### 2.3. 「IGCJ を考える会」の振り返り

C. 最初は個人的な興味で参加したが、日本 ITU 協会には 120 社が会員となっている。今回、機関誌に寄稿してもらったが、会員にはキャリアや放送局がいて、さらには賛助会員もいて、一般財団ということで各社の中の人でも専門家ばかりとは限らない。経営者とか事務職の人とか、技術者以外もたくさんいる。冒頭の IDN TLD に関するプレゼンだが、素人的な理解だと、ある日突然見慣れない TLD が使えるようになるとか、そういう話かと理解した。そうすると、詐欺とか悪いことを考える人が出てくるのではないかと感じてしまう。

機関誌だと一般にリーチするにも限りがある。例えば、報道の人とかにレクチャーをしてもらうと、記事を書く記者の人でも興味を持つのではないかと考えた。プレスリリースとかは大げさかもしれないが、一般の人にはこういうのを見ても、難しい議論をしているとしか見えないだろう。ブラウザでニュースを見たりといった使い方をしているユーザーには関係ない話なので、でも、実際にはものすごく大事なところに関係してくる。一般の人だって、ドメイン名が本物かとか、誰が登録したのかとか知りたいはず。そういう情報とか、こういう事件が起きたので気をつけてとか、そういった一般ユーザーへの啓発みたいなことをしてもらおうと、みなさんにありがたく情報を受け取ってもらえるのではないかと思う。

A. 会議を中心に一年半活動してきたが、もっと日々のことについて、日本人全員とつながる仕組みを考えてはどうかという提案だと理解したので、持ち帰って考えてみたい。もちろん我々だけではできないので、いろんな団体と協力してということにはなると思うが。

C. プログラムを作るところについては、人数が少ないのでネタ切れするのは当然。ここに参加する方をお願いするというのは、みなさんは嫌がるかもしれないが、やりやすい方法のひとつではある。

あと、広報について考えると、ここには記者の方もいる。このトピックを取り上げてとインプッ

トするだけではなくて、彼らから逆に企画をもらうようにするというのもありだと思う。彼らは敏感ではあるけど、ちゃんとわかってない人がたくさんいる。そういう人をここに呼んで、変なことを書かないように教育するのもよいかと思う。記事を書きたがっている人はたくさんいる。例えば、朝日の平さんとか、そういうところにインプットするといいいのでは？あとは BCN に連載を持っているので、その枠で記事を 2 ヶ月に 1 回とか半年に 1 回とか出すのも可能だと思う。

昨日、ISOC-JP の BoF でも出たが、日本の活動をまとめて出さないという話があった。それをここでやってもいいのかもしれない。日本のスナップショットを、トピックベースで半年に 1 回出すとか。

A. よいとは思いますが、最後のはすごく難しそう。あと、メディアという話があったが、今までメディアの人はどのぐらい来ているのか？

C. 定期的に記者の人は来ている。たくさんではなくて、1~2 名ぐらいだが。

A. 「勉強して帰って終わり」ではなく、記事を書きたいと思うようなテーマを聞き出してあげればいいということなんでしょうね。それが出来ればこの会のアウトプットとしてもいいし、記者にとってもいいし、お互い Win-Win になれるという提案だと理解した。ぜひやりましょう。

C. 二つの視点があると思う。一つはこの内容をやっていること自体を広く伝えるということ。もう一つはグローバルにやっている議論に参加できる、そういうポテンシャルを持った人間を増やすこと。そのためには議論のやり方にも慣れる必要がある。我々自身も学ばないといけないが、聴講するタイプのイベントが大半なので、議論やアウトプットを出すことを目的にしたコミュニティはとっても少ない。そういう思いを持って、いろいろ悩みながら考える会のアクティビティはやっている。

A. 仰るとおり。テーマだけ決めても勉強会になってしまう。

C. 何となくだが、みなさん Facebook だと変わった人とも友達になっていると思う。そういう人を呼んで話してもらうのはどうだろう。チャンネルとして、オンラインで話している人って相当増えていると思う。特にポリシーとかそういった分野だとそう感じる。大体、これだけ多くのみなさんがいると、友達も相当たくさんいるはず。そこを共有できるといいと思う。

C. 意見形成をしていて議論に慣れていないというのはおっしゃる通りだと思う。少し思い出したのは、どこかの団体で模擬 ITU みたいなのをやっていると聞いたことがあった。そういうのを、例えば模擬 IGF とかみたいな感じでイベントとしてやってみて、簡単な 1 枚もの成果物を作ってみるとか、そういうのもありかなと思った。

A. 素晴らしい。ブラジルで IGF があり、その中で APrIGF のステアリングコミッティーみたいなのがあって、そこでちょうどマルチステークホルダーのロールプレイをやるようなセッションがあってもいいのではという話があった。「あなたは政府」「あなたはビジネス」「あなたは市民団体」とかいった感じで。チームを作り、あるテーマを与えて議論をやって、どう議論するとどう成果が出るのかというのをやってみるということ。次回は台湾だが、そこからは最初からこれをプログラムとして入れることになるかもしれない。それを英語でやるのは大変なので、日本にお

いて日本語でやるというのはよいのではないだろうか。今、話を聞いていて、すごくやりたいなと思った。

C. 終わる前に、次回 IGCJ のスケジュール調整についてだが、後でやるとなっても、どうせみんなの AND が取れない。それなら今もう決めてしまえば、少なくともここに来ている人の予定はリザーブできるのではないか。AND を取ろうとしても取れないに決まっているので、今決めたほうが良い。

C. 【司会】候補日は今のところ 2016 年 1 月 28 日(木)を予定している。これで確定して問題ないか？

C. デフォルトはその日程とし、何か変更があれば連絡するという事でよいだろう。

C. 【司会】では、皆さん 1 月 28 日で予定を確保していただくようお願いする。時間は 18 時スタートで、場所はいつも通り JPNIC オフィスになる予定。変更がある場合は改めて告知するので、まずはこの日ということでご承知おきいただきたい。